

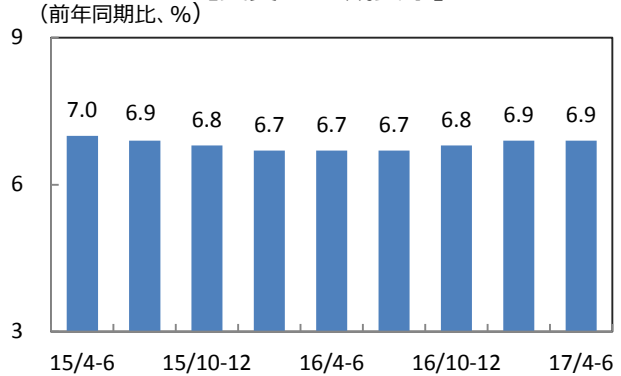
今日のトピック 最近の指標から見る中国経済（2017年7月）

上半期は上振れ、下半期も堅調推移へ

ポイント1 GDP成長率は+6.9%
通年で政府目標を上回る公算

- 中国国家统计局は17日に主要経済指標を発表しました。2017年4-6月期の実質国内総生産（GDP）成長率は、前年同期比+6.9%と、市場予想（ブルームバーグ集計）の同+6.8%を上回りました。
- 実質GDP成長率は1-3月期に続き同+6.9%となったため、17年の政府目標「+6.5%前後」を通年で上回る公算が強まりました。

【実質GDP成長率】

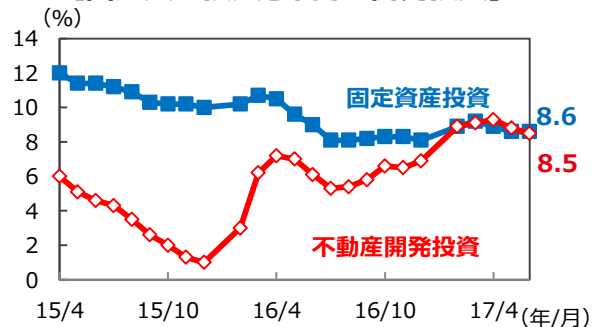


(注) データは2015年4-6月期～2017年4-6月期。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 固定資産投資の伸び横ばい
インフラ投資が堅調

- 1～6月の固定資産投資は前年同期比+8.6%と、1～5月（同+8.6%）から伸び率が横ばいとなり、市場予想（同+8.5%）を上回りました。不動産開発投資が減速したものの、インフラ投資の伸び率が同+21.1%となるなど堅調を維持していることが背景です。
- 不動産開発投資（1～6月）は同+8.5%となり、1～5月（同+8.8%）から伸び率が2カ月連続で鈍化しました。引き締め気味の金融政策の効果が出始めたと思われる。

【固定資産投資と不動産開発投資】



(注) データは2015年4月～2017年6月、年初来累計の前年同期比。
数字は2017年6月。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 **17年下半期の景気も堅調に推移しよう**

- 中国国家统计局が17日に発表した主要経済指標は、GDPや固定資産投資だけでなく、鋳工業生産や小売売上高も市場予想を上回るなど、総じて上振れました。中国当局は、不動産市況過熱に伴うバブル発生を警戒し、金融政策を引き締め気味に運営しています。政府の財政出動によるインフラ投資などから17年上半期の景気は上振れましたが、下半期は金融政策の引き締めなどの影響によりやや減速すると見られます。ただし、景気は比較的速いペースでの拡大が続く見通しです。

ここもチェック! **2017年7月 6日 安定する中国経済**
2017年6月21日 『中国の住宅価格』上昇は続くのか?

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。